

# ハウス牛舎を活用した周年親子放牧技術

## 1 はじめに

福井県のような積雪地帯でも、周年親子放牧による子牛生産が可能でしたので、その技術を紹介します。

## 2 周年親子放牧を行うための準備

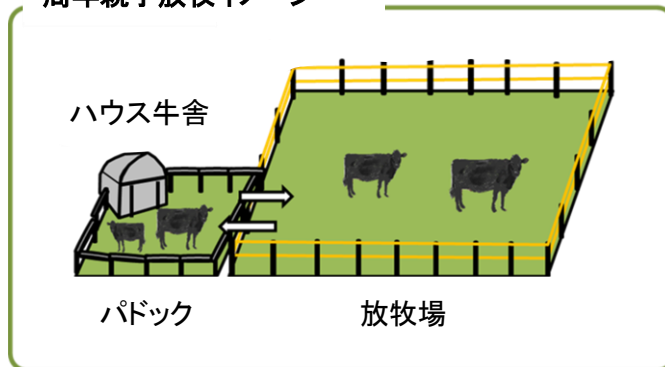
牧草飼料を確保するため、放牧を開始する前年の 10 月上旬に耕起し、オーチャードグラスやトールフェスク、クローバーなどの牧草種子を混播しておきます。放牧地の条件により必要な面積は変わりますが、成雌牛1頭当たり 50a を目安にしてください。

放牧地の一角にハウス牛舎（10m×7m）を設置し、単管パイプで柵を作りパドックとします。



ハウス牛舎とパドック

### 周年親子放牧イメージ



放牧地の周縁は電気柵で囲みます。放牧地内を電気柵で細分し輪換放牧することで限られた放牧地を有効に利用できます。

また 11 月～3 月頃までは牧草量が十分ではないので、サイレージや乾草、配合飼料を給与する必要があります。

## 3 牛の育成成績や繁殖成績

9 か月齢で放牧開始した繁殖雌牛（母牛）4 頭はいずれも正常に発育し、受胎しました。12 月と2月の真冬にハウス内で正常に分娩しました。産子はハウス内に設置したカウハッチで哺育した後、放牧で育成しました。9 か月齢に達した子牛3頭は市場で販売し、日齢体重が1.0以上であった2頭はいずれも 70 万円以上で販売できました。（表1）

表1 子牛出荷時の成績（北陸三県子牛市場）

| No | 放牧場 | 性別 | 体重(kg) | 日齢体重(kg/日)* | 価格(万円)** |
|----|-----|----|--------|-------------|----------|
| 1号 | A   | 雌  | 291    | 1.00        | 74.7     |
| 2号 | B   | 去勢 | 282    | 1.00        | 81.5     |
| 3号 | B   | 雌  | 189    | 0.70        | 40.9     |

\*: 体重/日齢 \*\* : 税込み価格

## 4 経費

牛を除く初期費用は 139 万円でした。（表2）

維持費は飼料費、衛生費、種付代等で年間 26 万円でした。雌牛2頭の導入から取り組むと4年目で黒字になります。

表2 初期費用

| 項目         | 金額(千円) |
|------------|--------|
| ハウス牛舎(本体)  | 904    |
| ハウス牛舎(被覆材) | 55     |
| 簡易スタンション   | 91     |
| 恒久牧柵       | 93     |
| 給水設備       | 88     |
| 電気柵一式      | 156    |
| 計          | 1,387  |